

## 2005年2月アルゼンチンの政治情勢

2005年3月作成  
在アルゼンチン大使館

### 1. 概要

サザン・ウィンズ航空による麻薬密輸事件が発生後約4ヶ月も経って公となり、空港の麻薬検査体制の不備が問われ、空港警察を管轄していた空軍参謀長が更迭された。昨年末のディスコ火災の責任問題について、イバラ・ブエノスアイレス市長のリコールを問う市民投票（レファレンダム）実施に向けて署名集めが開始された。10月議会選挙の前哨戦となるサンティアゴデルエステロ州知事選挙では、伝統的にペロン党が支配してきた同州で急進党候補が勝利した。また、最高裁判事が1年半振りに全員揃った。

外交面では、チャベス・ベネズエラ大統領の訪亜、シオリ副大統領の訪米、アニバル・フェルナンデス内相のイスラエル訪問、ゴンサレス・ガルシア厚生環境大臣訪日等が行われた。

### 2. 内政

#### (1) サザン・ウィンズ航空麻薬密輸事件

(イ) 2004年9月、エセイサ国際空港（亜）発マドリッド行きサザン・ウィンズ航空6420便でコカイン60キログラムの入ったスーツケース4個が運ばれ、翌日、同便が到着したバラハス国際空港（西）でスペイン当局により発見された。「在西亜大使館」というシールが貼られた同スーツケースは、どの乗客の持ち物でもなかったが、エセイサ空港で問題なく荷積みされていた。事件後、同事件に関与した疑いで、同航空会社職員3人が逮捕された。

(ロ) 同事件は、事件後約4ヶ月経った13日、当地全国紙ラナシオン紙に掲載されて公になり、空港警察（空軍管轄）が荷物全体の30%しか麻薬検査をしておらず、残りは民間会社に同検査を委ねている等、エセイサ空港の麻薬検査の甘さが批判された。

(ハ) 事件が公になった後、キルチネル大統領は、Giaigischia 空港警察署長、ロデ空軍参謀長、12名の空軍幹部を更迭した他、空港警察を国防省管轄から内務省管轄に移し、空港警察の直接指揮官として、180日間の予定でサイン司法省金融犯罪調査局長（元ブエノスアイレス州治安副長官）を任命し、空港警備を改善する規範を作成する委員会を創設した。

(ニ) 22日、亜南部空軍司令官スキアフィーノ空軍少将が新空軍参謀長に就任した。

#### (2) ブエノスアイレス市

(イ) 2004年12月30日のディスコ火災以降、防災コントロールが不十分だったこと等が責任問題となり、1月31日イバラ市長は、野党による政治責任追及を乗り切

るため、市民に直接信を問いたいという意向を示し、自分自身のリコールを問う市民投票（レファレンダム）を行うと発表し、その後、実施に向けて署名集めを開始した。

（ロ）ブエノスアイレス市憲法第67条によると、市民のイニシアティブにより、選挙人名簿（約260万人）の20%（約52万人）分の署名が集まれば、レファレンダムを実施することができる。

（ハ）なお、イバラ市長の訴えに先立って、当地複数NGOも市最高裁の許可を得て、レファレンダム実施のための署名集めを別途開始した。

### （3）サンティアゴデルエステロ州知事選挙

（イ）27日、サンティアゴデルエステロ州知事選挙が行われた。同選挙前、シオリ副大統領、アニバル・フェルナンデス内相、アリシア・キルチネル社会開発相等が現地入りしてペロン党候補応援を行ったが、結局、サモラ急進党候補がフィゲロア・ペロン党候補等を破り勝利した。

（ロ）また、同日、州議会議員（1院制、50議席）等の選挙が行われ、Frente Civico（急進党と少数政党の連合）：24議席、ペロン党：21議席、Movimiento Santiago Viable（キルチネル大統領派グループ）：5議席の結果となった。

（ハ）新知事及び新議員は3月23日に就任し、その日をもって、昨年4月1日より行われてきた中央政府直接統治が終了する。

### （4）最高裁人事

（イ）3日、アルヒバイ女史は、ペトラッキ最高裁長官の前で宣誓を行い、正式に最高裁判事に就任した。同人は、キルチネル政権下における4人目の新最高裁判事となった。

（ロ）同女史の最高裁判事就任により、約1年半振りに長官を含む最高裁裁判官9名全員が揃った。

（ハ）しかし、昨年、下院においてボジャノ最高裁判事の弾劾が承認されており、3月に上院で同判事の弾劾審議が行われる予定である。

### （5）メネム元大統領

（イ）8日、エドゥアルド・メネム上院議員は、メネム元大統領が10月議会選挙にラリオハ州から上院議員として立候補する旨発表した。

（ロ）9日、司法省管轄のイスラエル共済会館（AMIA）爆破事件調査特別委員会は、メネム元大統領及びコラッチ元内相（メネム政権）を、同事件解明妨害の容疑で、同事件担当のボナディオ連邦判事に告発した。メネム元大統領が同事件捜査に関する不正で正式に告発されるのは、初めてのことである。今後、ボナディオ判事は、同告発に基づき捜査を開始するか否かを決定する。

（ハ）メネム元大統領とロドリゲスサア下院議員（元大統領）は、数回に亘り会談を行

い、ペロン党執行部選挙即時実施等を求めた。アドリアン・メネム下院議員及びエドゥアルド・メネム上院議員が各々ペロン党会派を脱退する等、両派は議会における反政府勢力としての立場を強めている。

#### (6) ピケテロ

Lapadu 及び Unrein 両ブエノスアイレス市検察官は、初めて同市市民共同生活条例に基づき、市政府に対する事前の報告なしに、こん棒等を携帯して道路封鎖等を行うピケテロを取り締まるよう警察官に命じると共に、ピケテロがこれに従わない場合は、逮捕するよう命じた。

#### (7) 時効に関する刑法改正

(イ) 5日、当地全国紙ラナシオン紙が、2004年12月末に可決成立した時効に関する刑法改正案について報道したことで、同改正内容を巡る議論が高まった。同改正は時効停止要因を限定化する内容であるため、時効がこれまでより早く成立する可能性があることから、司法関係者等は、重要な汚職等の犯罪が処罰されない可能性があるとは批判した。

(ロ) 8日、キルチネル大統領は、治安改善運動を率いているブルンベルグと会談して同刑法改正に関して意見交換を行った。その後、キルチネル大統領は、同内容を再改正する法案を議会に提出することを検討した。

#### (8) コルドバ州の刑務所暴動

(イ) 10日、コルドバ州の刑務所において、囚人が免責や収監条件改善等を求めて、看守や面会に来ていた家族等を人質に取り、一部囚人が脱走を試みる騒ぎがあり、死者8名（警察官1名、看守2名、囚人5名）、負傷者約30名が出た。

(ロ) 同暴動の発端は囚人同士の喧嘩であったが、同刑務所は、1889年に開設されたコルドバ市（州都）の中で最も古い刑務所であり、建物の老朽化が問題とされてきた上に、収容人数が900名であるところ、事件発生時には1600名の囚人が収監されており、環境が悪く、さらに面会規定が厳しくなり囚人の不満が鬱積していた。

(ハ) 11日、同州政府関係者の説得により人質は解放され、同刑務所占拠は解除された。

### 3. 外交

#### (1) ベネズエラ

(イ) 1日、キルチネル大統領とチャベス・ベネズエラ大統領は、大統領府において約90分間に亘って会談を行った。

(ロ) 両大統領は、亜国営エネルギー会社(ENARSA)及びベネズエラ国営石油会社(PDVSA)

が調査、採掘、精製、輸送等の共同事業を実施する旨の覚書に署名した他、4隻の船舶（タンカー）の建設を行う合意書に署名した。また、チャベス大統領は、アルゼンチンにおいて、2005年度に PDVSA と ENARSA の共同で600のガソリンスタンドを開設するつもりであると述べた。

（ハ）両国は、アルゼンチンがベネズエラに対して、約3000頭の乳牛及び農機具を輸出することで合意した（同日、チャベス大統領は、乳牛878頭を船積みした輸出船の出港式に参加した）。チャベス大統領は、ベネズエラはエネルギー資源のある国であり、アルゼンチンは農工業の盛んな国なのだから、その交換を行うことは自然のことであると述べた。

（ニ）両大統領は、テレビチャンネル TeleSur を創設することで合意した。同合意は、南米のニュース等をベネズエラから南米各国に放送するチャンネルを作るというチャベス大統領の提案にキルチネル大統領が賛同したものである。

（ホ）アルゼンチンは、癌患者に対する X 線治療の専門家及び病院におけるエレベーター160機をベネズエラに送る旨の覚書に署名した。

（ヘ）その他、チャベス大統領が、粗暴な帝国主義が蘇ったと述べて米国を非難したのに対して、キルチネル大統領は外交的に多元主義を継続するよう求めると発言した。

（ト）チャベス大統領は、1月31日にペレス・ロケ・キューバ外相と夕食を共にしたと述べた。その後、亜外務省は、同外相の訪問を全く承知していなかったと述べた。

## （2）米国

（イ）6日、シオリ副大統領は、米国でイグレスィアス IDB 総裁と昼食を共にした。同総裁は、亜経済の回復を賞賛すると共に、亜の対民間債務再編の経過及び結果に関して慎重ながら楽観視していると述べた。

（ロ）7日、シオリ副大統領は、ホワイトハウスにおいてチェイニー米副大統領と会談した。第二期ブッシュ政権において米国政府高官が亜政府要人と会談を行なうのは、これが初めてのことである。

チェイニー副大統領は、亜経済の回復を賞賛すると共に、デフォルトから脱出するためのキルチネル政権の努力を支持すると述べた。また、同副大統領は、キューバ及びベネズエラについての懸念を示したが、1日に行われたキルチネル大統領とチャベス大統領の会談や同会談で締結された合意については触れなかった。

他方、シオリ副大統領は、テロ、麻薬、マネーロンダリングの対策に取り組む決意を示した。

## （3）イスラエル

11-16日、アニバル・フェルナンデス内相はイスラエルを訪問し、シャロン首相及びペレス副首相等と会談し、テロ対策等の治安対策についての意見交換を行った。

(4) 日本

(イ) 14日、ゴンサレス・ガルシア厚生環境大臣は、東京で尾辻厚生労働大臣及び小池環境大臣とそれぞれ、衛生及び環境保護分野における二国間協力について話し合いを行った。

ゴンサレス・ガルシア厚生環境大臣は、両会談を非常にポジティブなものと評価し、小池環境大臣との会談について、「二国間合意の基盤を作ることができた。日本は世界第二位の工業国であり、環境への影響を軽減させる経験が豊かな国でもある」と述べた。

(ロ) 16日、ゴンサレス・ガルシア厚生環境大臣は、昨年12月に当地で開催された第10回気候変動枠組み条約締約国会議(COP10)議長として、京都議定書発効記念行事に出席した。

(5) 要人往来

(イ) 来訪

1月31日－2月1日 チャベス・ベネズエラ大統領  
ペレス・ロケ・キューバ外相

2月10日 トレス・ボリビア炭化水素相

2月25日 アルデレテ・パラグアイ公共事業相

2月27－28日 ペレス・ロケ・キューバ外相

2月28日 Calmy-Rey スイス外相

モラレス・トロンコソ・グアテマラ外相

(ロ) 往訪

2月1－2日 ビエルサ外相ホンジュラス訪問(中米各国大統領と会談)

2月3－4日 ビエルサ外相コロンビア訪問(対コロンビア国際協力・調整会合出席)

2月3－9日 パンプーロ国防相訪西(ボノ・マルティネス国防相と会談)

2月6－7日 シオリ副大統領訪米(チェイニー副大統領等と会談)

2月12－17日 ゴンサレス・ガルシア厚生相訪日(京都議定書発効記念行事出席)

2月11－16日 アニバル・フェルナンデス内相イスラエル訪問(シャロン首相等と会談)